

廣岡選手が初優勝&東選手が今季2勝目 2レースともスタートに逆転ウインのドラマが!



■2018年4月29日 ■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県） ■晴れ（ドライ） ■参加台数：第9戦 18台/第10戦 19台

ROK SHIFTER CUP 2018 鈴鹿シリーズの第9戦/第10戦が4月29日、三重県・鈴鹿サーキット国際南コースで開催された。ROK SHIFTER CUPはこの先、静岡県・オートパラダイス御殿場での2大会・4戦を行なった後、鈴鹿へと戻って8月12日に2018シリーズ最後の大会が行なわれる。ポイントレースも大詰めを迎え、ROK 世界大会（インターナショナルファイナル）招待選手の座を目指すドライバーたちは、ますます意欲の高まるどころだ。

今大会のエントリーは、ニューカマー2名を含めた20名。決勝日を迎えた鈴鹿は雲ひとつない快晴に恵まれ、絶好のレース日和になった。

5分間のクオリファイングプラクティスで47秒586のトップタイムをマークしたのは、中国から参戦の余快選手（Team EMATY）。これで2大会連続のQPトップだ。0.122秒差の2番手に廣岡陸勢選手（トレンタクワトロ）、3番手に大草りく選手（MOMOX）と続き、4番手に女性ドライバーの下野璃央選手（ぴいたあばん）が着けた。ポイントランキング首位の水越健太選手（MOMOX）は5番手、同ランキング2番手の小林弘直選手（HRT）は6番手だ。



Round 9

(8LAPS)



今大会は同時開催のクラスを含めてエントリーが200台に達し、1日で30ものセッションが実施されるタイトなスケジュールになったため、第1レースに当たる第9戦は普段の10周から8周に減らして行なわれた。

ダミーグリッドでエンジントールから再発進できなかった選手があり、レースは18台で戦いの幕を開けた。スタートでは廣岡選手が余快選手をかわしてトップに浮上。下野選手も素晴らしいダッシュを決めて2番手に上がり、余快選手は3番手となった。その後ろにはオープニングラップに5つ順位を上げた東拓志選手（NEXT-ONE Racing）、大草選手らが続き、先頭集団は長い隊列に。余快選手は下野選手の真後ろにびたりと着けるものの、逆転するまでには至らない。レース終盤、先頭集団は廣岡選手、下野選手、余快選手、東選手、大草選手、高橋知己選手（VITEC racing）、小林選手の7台に絞られた。最終ラップ、ヘアピンコーナーの進入で余快選手が下野選手のインに並ぶ。下野選手はクロスラインの再逆転を狙うが果たせず、余快選手が2番手に浮上した。

レースはこのままフィニッシュ。廣岡選手は危なげなくトップの座を守り切り、初優勝と第10戦のポールポジションを獲得した。2位の余快選手は3戦続けてのトップ2ゴール。下野選手は自己最上位を大きく更新する3位だ。4位の東選手、5位の大草選手に続き、「鈴鹿は5年ぶり、カートは2年ぶり」というROK SHIFTER初レースの高橋選手が6位でチェッカーを受けた。



WINNER：廣岡 陸勢 選手

スタートに集中して、うまく1周目のダッシュを決めることができたので、あとはゴールまで淡々と走るだけでした。8週の短いレースだったので、抜かれずトップのままゴールしようと思っていました。タイヤが減っても体力が落ちても安定したペースで走れるようにトレーニングしてきたのですが、その成果を出せたと思います。第10戦もトレーニングの成果を発揮して、トップのままゴールしたいです。



2nd PLACE：余快 選手

スタートをミスして悔しいレースになりました。でも、前の選手に着いていくことができクルマはまったく遅くないと分かったし、次の第10戦に希望が持てるレースでした。最終ラップのオーバーテイクは、あのタイミングでいこうと決めていました。ミッションカートは抜くことが難しいのですが、次も順位を上げてゴールしたいです。



3rd PLACE：下野 璃央 選手

スタートはフライングかな、と少し心配だったけれど、今までスタートで失敗することが多かったので、成功してほっとしました。第10戦に向けて自信が持てるレースでした。初めてROK SHIFTERに乗った頃はちゃんと変速ができず4速全開で走ったりしていたけれど、最近はジェットの違いも判断できるようになって、上達してきていると思います。

Round 10

(16 LAPS)



ROK SHIFTER ならではのスタンディングスタートで抜群のダッシュを見せたのは、4番グリッドの東選手。メインストレートの右端を真っ直ぐ突進して、第1コーナーの進入までにトップへと躍り出た。それにフロントロウの2台、廣岡選手と余快選手が続く。4番手には5番グリッドの大草選手が、5番手には7番グリッドの小林選手が浮上。3番グリッドの下野選手は7番手で1周目を終えた。

2周目には廣岡選手が先頭に戻るが、東選手はこれを再び抜き返すと、徐々にリードを広げていく。8周目、東選手とセカンドグループとのギャップは1秒以上となった。そんな東選手を上回るペースでラップを続けていたのが小林選手だ。小林選手は前を行くマシンを次々にかわし、8周目に2番手へポジションを上げると、なおも東選手との差を縮めていく。第9戦で8位にとどまった水越選手も、いつもの好調を取り戻して挽回を続け、9周目に3番手へと浮上した。残り3周、東選手と小林選手の間隔は約0.5秒に。最終ラップ、2台はついにテール・トゥ・ノーズとなった。しかし、東選手はなんとか逃げ切りに成功。右手を高々と突き上げ、第6戦に続く2勝目のチェッカーをくぐった。小林選手は約0.2秒差の2位。水越選手は単独走行で3位フィニッシュ。4位の余快選手に続き、金田翔選手 (TAKAGI PLANNING) が13台抜きを猛追で5位ゴールを遂げた。APGシリーズと合算のポイントランキングは、水越選手が合計得点を140点に伸ばして首位を堅持。シリーズ全戦ポイント獲得中の小林選手は124点で2番手をキープ。東選手が120点で3番手に浮上した。

WINNER : 東 拓志 選手

QPでは少しセッティングをミスしたけれど、レースでは上がれるだろうと思っていました。第9戦で前の選手たちは絶好調というほどでないなと感じていたので、スタートで前に出られたら勝てる予定でした。小林選手の接近に気付いたのは、残り4周くらいになってから。逃げ切れるだろうと思ってはいたのですが、最終ラップは少しひやひやしました。みんなタイムが同じくらいの難しいレースで勝って、第6戦の優勝より喜びが大きいです。

2nd PLACE : 小林 弘直 選手

第10戦はちょっとセッティングを変えたらうまく当たって、どんどん上がっていきことができました。最終ラップは東選手に追い付いたけれど、当たったりしたら元も子もないので、確実に2位でゴールしようと気持ちを切り替えました。久しぶりに表彰台に上がれてうれしいです。できればポイントリーダーになって世界大会に行きたいですね。

3rd PLACE : 水越 健太 選手

第9戦までフレームにトラブルがあったけれど、チームの人たちが頑張って応急処置をしてくれました。そのおかげで、ますますの状態第10戦を走ることができて、最終的に3位になれました。終盤はタイヤが厳しかったのですが、QPからこの調子だったら追い上げでタイヤを使うこともなかっただろうし、展開は違っていただかもしれませんね。